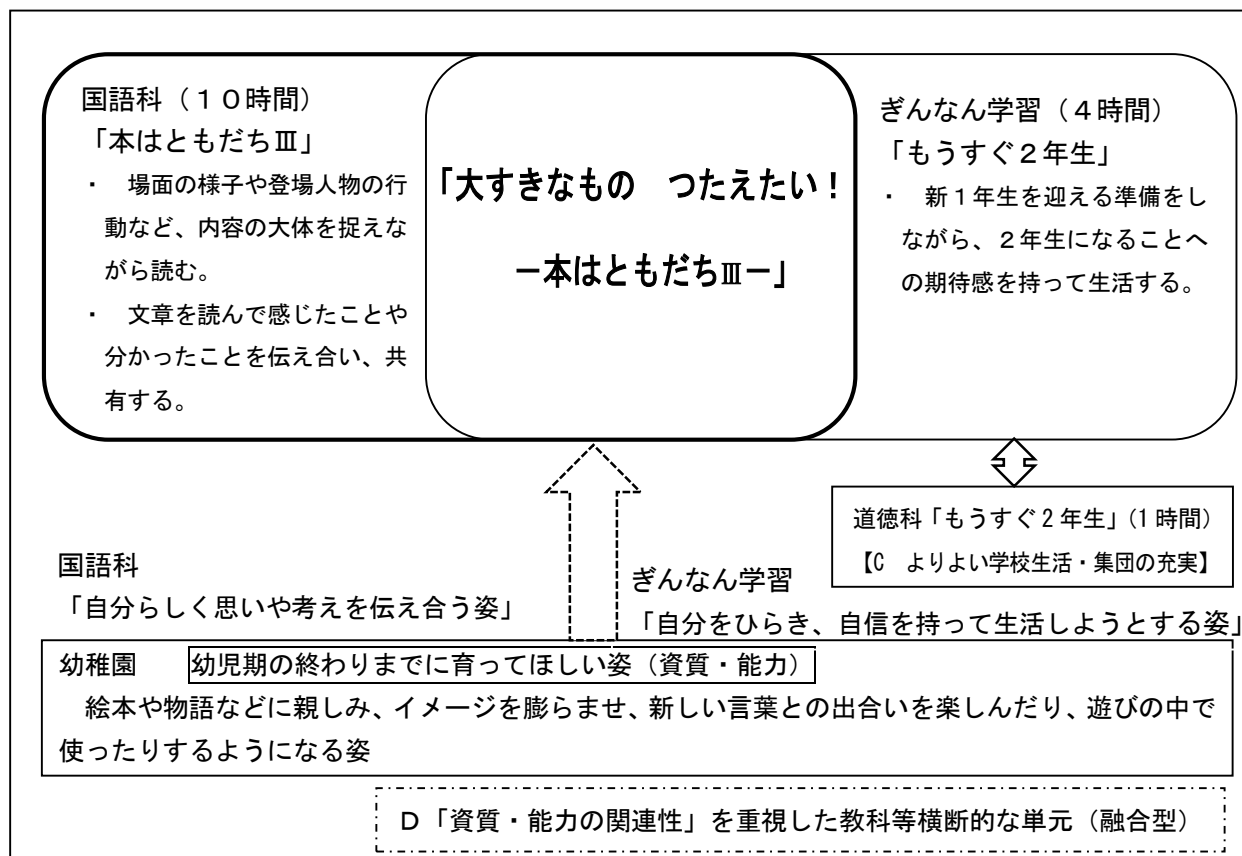


第1学年花組 国語科（＋ぎんなん学習【生活科】・道徳科）

「大すきなもの つたえたい！一本はともだちⅢー」

指導者 吉岡 亜紀子

1 単元全体構想図



2 単元構想について

本単元は、国語科の「伝え合う力」とぎんなん学習【生活科】の「自己をひらき、自信を持って生活しようとする力」との資質・能力の関連性を重視した単元である。

本学級の子どもは、「本はともだちⅠ」「本はともだちⅡ」の単元において、「大きなかぶ」や「けんかした山」「ゆうやけ」「りすのわすれもの」等、いろいろな物語と出会い、順序よく読んだり、場面の様子を想像しながら声に出して読んだりすることを楽しんできた。進んで本を読む子どもが多く、全体的には読むことへの興味・関心は高まっているように見える。しかし、手にしている本のジャンルには、偏りが見られる。進級する前にもっとたくさんの本に出会い、幅広く物語を楽しむことができるようになってほしいと願う。

2月は子どもにとって、もうすぐ2年生になるという期待感や、新1年生に知っていることを伝えたいという気持ちが高まる時期である。そこで、進級する前の期待感を高める活動と「読むこと」の言語活動を融合させた単元を構想した。

本単元で育てたい資質・能力は、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えながら読む力と文章を読んで感じたことや分かったことを伝え合い、共有する力である。学級全体で、場面の様子や登場人物の行動を捉えながら物語を読むことと、子どもが興味・関心を持った物語を選んで読むことを通してこれらの力を育む。

中心となる言語活動は、物語を読み、感じたことや分かったことを伝え合うことである。中心教材とする「たぬきの糸車」は、登場人物の「たぬき」の行動が子どもに親しみを感じさせるとともに、「おかみさん」のたぬきに対する愛情が、読み手をほっとさせる物語である。子どもは「たぬき」に自分を重ねながら進んで読み、物語のよさに気付くであろう。その中で、幼児期に培ってきた「絵本や物語などに親しみ、イメージを膨らませ、新しい言葉との出会いを楽しんだり、遊びの中で使ったりする」力や経験を生かす

ことができるように、動作化や音読を通して物語を読むことの楽しさを感じさせていきたい。

「どくしょのたび」とは、興味・関心を持った物語を読み、大切だと感じたことを「宝物」として、記録に残していく活動である。「宝物」を探しながら読むことを提案することで、進んで読もうという意欲を高めていく。また、子ども一人一人の異なる読書経験を生かし、友達と「どくしょのたび」で見付けたことを伝え合いたいという思いも持たせる。そして友達との伝え合いを通して、物語を読むことの楽しさが分かった、もっと読みたい、新1年生にも伝えたいという気持ちを高めていこうと考える。新1年生の学校体験日に合わせて、「どくしょのたび」発表会を行い、子どもが自分らしく物語の楽しさを伝え合うことができるようにし、達成感や充実感を味わわせていきたい。

3 単元のねらい

- 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えながら読む。(国語科)
- 文章を読んで感じたことや分かったことを伝え合い、共有する。(国語科)
- 新1年生を迎える準備をしながら、2年生になることへの期待感を持って生活する。(ぎんなん学習)

4 単元の展開 (全15時間：国語科10時間、ぎんなん学習4時間、道徳科1時間)

場面	子どもの課題意識と主な学習活動	評価の規準(国語科)	時間
出 合 い	「どくしょのたび」をして、「宝物」を探そう。 ○ 「どくしょのたび」を知り、好きな物語を選んで読む。	● 「どくしょのたび」に興味を持ち、進んで読もうとしている。	2
追 究	どんな宝物が見つかったか伝え合おう。 ○ 「たぬきの糸車」を場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えながら読む。 ○ 自分の興味・関心に合った物語を読み、物語のよさや面白さを考える。 ○ 見付けた物語のよさや面白さ、感じたことを、友達と伝え合う。	● 内容の大体を捉えながら読み、物語のよさや面白さを見付けている。 ● 見付けたことを伝え合い、思いを共有している。	8 本 時 その7
振 り 返 り	「どくしょのたび」の楽しさを広げよう。 ○ 新1年生に物語を読むことの楽しさを伝え、学習全体を振り返る。	● 単元全体を振り返りながら、これからも進んで物語を読もうという思いを持つ。	5

5 単元における指導と評価の工夫 (国語科)

場面	三つの場面ごとの指導と評価の工夫
出 合 い	・ 「どくしょのたび」と出合わせて、物語を進んで読もうという気持ちを持たせる。 ・ 「どくしょのたび」の記述から〈自己効力感〉の高まりを見取り、個に応じた学習目標を具体的に設定させる。
追 究	・ 紙芝居を活用したり、動作を取り入れた音読等を取り入れたりしながら「たぬきの糸車」の内容の大体を楽しく捉えることができるようにする。 ・ 「たぬきの糸車」の感想を共有させて、物語のよさを「宝物」として言葉で表現できるようにする。 ・ 友達と「どくしょのたび」で発見したことや感じたことを伝え合う場を設け、物語のよさを共有することの楽しさを味わうことができるようにする。
振 り 返 り	・ 新1年生に物語を読むことの楽しさを伝えながら、読むことのよさを実感させる。 ・ 「どくしょのたび」を振り返りながら、内容の大体を捉えながら読めるようになっていることを自覚させ、これからもいろいろな物語を進んで読もうという気持ちを高める。 ・ 単元全体を振り返り、伝え合う楽しさや、学んだことを新1年生に伝えたことへの達成感や充実感を味わわせる。

6 本時の授業（9／15）

(1) 日 時 平成31年2月1日（金）10:30～11:15

(2) 場 所 1年花組教室

(3) ねらい（国語科） 「どくしょのたび」で見付けたことを伝え合い、思いを共有する。

(4) 準備物 「どくしょのたび」カード、評価カード

(5) 展 開

学習活動	予想される子どもの意識の流れ	指導(○)と評価(●)
1 「どくしょのたび」における「宝物」は何か確認する。	宝物を探しながらお話を聞こう。 ・だれが何をするお話かな。 ・「宝物」は何だろう。 ・発見する「宝物」は一つじゃなくてもいいんだね。	○ 子どもが興味を持って聞くことができるような物語を読み聞かせ、友達が見付けた「宝物」を知りたいという気持ちを高める。
2 本時の学習目標を立てる。	「宝物」について伝え合おう。 ・友達によく分かるように話そう。 ・友達がどんな「宝物」を見付けたかしっかり聞こう。	○ 個に合った学習目標を設定するよう声を掛ける。 ○ やる気度を確認し指導の手掛かりとする。 [🌸◎○]
3 「どくしょのたび」で発見したことや感じたことを伝え合い、物語のよさを見付ける。	いろいろな「宝物」を見付けよう。 ・「プレーメンのおんがくたい」を読んで、「きょう力するとできる」という「宝物」を見付けたよ。 ・ぼくは、そのお話を知っているけれど、「勇気」が「宝物」だと思うなあ。 ・「百万回生きたねこ」は死んでしまうけれど、「愛」という「宝物」を見付けたねこのお話だよ。 ・もう少し誰がどんなことをしたお話なのか教えて。 ・面白そうな物語だね。読んでみたい。	○ 評価カードを活用し視点ははっきりさせて伝え合うことができるようにする。 ○ 友達の「宝物」が何か気を付けて聞くように声を掛ける。 ● 友達の見付けた「宝物」を理解しようとしているか。 [様態・記述]
4 本時を振り返り、次時への見通しを持つ。	「どくしょのたび」で見付けたことをもっと伝えたいな。 ・友達と「宝物」のことを話して楽しかった。 ・物語にはいろいろな「宝物」があることが分かった。 ・本を読んで「宝物」を見付けるのは難しいけれど、何回も読むと分かるようになって面白い。 ・次の時間も他の友達が「どくしょのたび」をしたのか聞きたいな。 ・もっともっと物語を読んで「宝物」を見付けたい。	○ 学習目標を振り返らせながら、伝え合うことのよさも自覚させる。 ● 物語のよさを見付けながら読むことや、友達と伝え合って思いを共有することに充実感を感じているか。 [発言・🌸◎○・記述]

7 評価の具体的な方法

(1) 「出会い」の場面

	資質・能力が身に付いているかどうか	二つの欲求が満たされているかどうか
視点	自分に合った学習目標を立てている。	物語を読んで「宝物」を見付けることに興味・関心を持っているか。
方法	学習の見通しを持たせ、学習目標を具体的に設定させる。	「どくしょのたび」への学習意欲を見取る。 (記述 ♡◎○)
目指す姿	○ 物語を読んだ経験を思い出し、自分に合った学習目標を設定している。 ・進んで物語を読みたい。 ・今まで読んだことがない物語に挑戦したい。 ・宝物を見付けながら読みたい。 ・いろいろな宝物を見付けたい。	○ 物語を読むことに興味・関心を持っている。 ・楽しそうだ。 ○ 物語を読むことで充実感を得られそうだと感じている。 ・難しそうだけれどやってみよう。

(2) 「追究」の場面

	資質・能力が身に付いているかどうか	二つの欲求が満たされているかどうか
視点	場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えながら読み、物語のよさや面白さを見付けているか。	自分が選んだ物語について進んで読んだり伝え合ったりしながら、友達と思いを共有しているか。
方法	○ 言葉や動作化を取り入れながら、捉えた物語の内容の大体を記述させる。 ○ 物語を読んで感じたことや見付けたこと、伝え合って気付いたことを記述したり、伝え合ったりさせる。	○ 「宝物」を友達と伝え合わせる。 (記述 ♡◎○ 様態 発言)
目指す姿	○ 捉えた物語の内容の大体をノートに記述している。 ・おかみさんがたぬきをかわいそうに思って助けるお話です。たぬきはお礼をします。 ○ 物語を読んで感じたことや見付けたこと、伝え合って気付いたことをワークシートに記述したり、伝え合ったりさせる。 ・物語を読んで、いろいろな「宝物」を見付けることができた。 ・本を読んで「宝物」を見付けるのは難しいけれど、何回も読むと分かるようになって面白い。	○ 進んで物語を読み、見付けたことを記述したり、伝え合ったりしている。 ・たくさん読んだ。「宝物」を見付けた。 ・しっかり聞いて友達が見付けた「宝物」のことが分かった。 ○ 振り返りの評価が高く、次時への学習意欲を持っている。 ・他の物語を読んでもっと「宝物」を見付けたい。 ・友達の話聞いて「宝物」が増えて嬉しい。 ・もっと他の友達と「宝物」の話がしたい。 ・新1年生にも伝えたい。

(3) 「振り返り」の場面

	身に付けた資質・能力を生かしたり発揮したりしているかどうか
視点	物語のよさを見付けながら読み、伝えることができたと感じているか。
方法	単元全体を通して気付いたことや、学んだことをワークシートや自己評価カードに記述させる。 (記述 ♡◎○)
目指す姿	○ 単元全体を振り返りながら、物語の大体を捉え、よさを見付けながら読むことができるようになったことを自覚している。 ・今までよりもいろいろな物語を読んで、よさや面白さが分かるようになった。 ○ 「どくしょのたび」や、新1年生に伝えたことへの達成感や充実感を感じている。 ・これからも進んで読みたい。 ・新1年生に本の楽しさを伝えることができた。これからも教えたい。